

「SDGs Aichi EXPO 2004」 2024 年 10 月 12 日（土） Aichi Sky EXPO
ESD ユネスコ世界会議（2014 年開催）10 周年記念フォーラム

ESD ユネスコ世界会議 + 10Years フォーラム

あいち・なごやから世界へ



... 10年後の今



主催：中部 ESD 拠点協議会（国連大学認定 RCE Chubu）

協力：中部大学国際 ESD・SDGs センター、国連地域開発センター（UNCRD）、JICA 中部、

中部圏 SDGs 広域プラットフォーム、愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会、（一社）SDGs コミュニティ

後援：愛知県、名古屋市



RCE Chubu



中部 ESD 拠点（RCE Chubu）は、持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

開催趣旨

2014年11月に、名古屋国際会議場において、日本政府が2002年のヨハネスブルグでの地球サミットで提唱し、実現した「国連ESDの10年」（2005年～2014年）の最終年会合である「ESDユネスコ世界会議」が開催されました。ESDとは、持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）であり、その後、2016年に開始したSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた担い手づくりにもつながっています。本フォーラムは、「ESDユネスコ世界会議」10年を記念する唯一のイベントです。同会議から10年を迎えた今、ESDの成果としてどのような人材が育ったのか、社会にどのようにESDが定着したのかを検証します。また、2030年のSDGs最終年やポストSDGs時代を見据えて、今後の持続可能な社会づくりの担い手育成の課題と展望を議論します。

プログラム

10:00 **挨拶** 開会挨拶 福井 弘道 中部ESD拠点代表、中部大学副学長
来賓挨拶 武田 祥延 愛知県環境局長

10:06 **基調講演『ESDユネスコ世界会議の意味』**

岩本 渉



日本ESD学会副会長、元文部科学省参与、元ユネスコ本社会科学政策部長
1977年東京大学法学部を卒業し、文部省（現文部科学省）に入省。1980年パリ第2大学行政学修士課程（DEA）修了。2014年退官するまでの間、1979年から1981年までフランス留学、1990年から1993年まで在フランス日本国大使館に一等書記官として、2001年から2009年までユネスコ（国際連合教育文化科学機関）本部中等職業技術教育部長、社会科学政策部長として勤務した。帰国後文部科学省参与として、2014年のESDに関するユネスコ世界会議の準備にあたり「あいちなごや宣言」の作成に貢献。2016年から本年3月まで国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長を務め、現在、中部大学客員教授のほか、フランス語教育振興協会常務理事、アフリカ協会理事を務める

10:26 **パネルディスカッションI『私たちの10年～この10年・今後の10年～』**



寺社下 茜

東京アーバンパーマカルチャー事務局
（ユネスコスクール出身者）

倉野 愛弓

会社員
（かがやけ☆あいちサスティナ研究所出身者）



間瀬 雅介

株式会社REMARE代表
（中部サスティナ政策塾出身者）

井上 智博

加山興業株式会社経営企画室マネージャー
（あいち環境塾、SDGs経営塾出身者）



根岸 奈央

金城学院大学人間科学部4年
（なごや環境大学プログラム経験者）

コーディネーター

古澤礼太 中部ESD拠点事務局長



11:27

パネルディスカッションⅡ『ESD：課題と展望』

パネリスト



岩本 渉

日本ESD学会副会長、元文部科学省参与、
元ユネスコ本部社会科学政策部長

小西 美紀

国連大学サステナビリティ
高等研究所(UNU-IAS)
ESDプログラムコーディネーター



小森 繁

環境省中部地方環境事務所長

上町 透

国際協力機構(JICA)
中部センター所長



福井 弘道

中部ESD拠点代表、中部大学副学長

コーディネーター

林 秀敏
名古屋市立大学SDGsセンター長



12:27

挨拶

竹内 恒夫 中部ESD拠点運営委員長、名古屋大学名誉教授

※ このフォーラムは、第30回中部大学ESD・SDGsシンポジウムとしても位置付けられています。

SDGs Aichi EXPO

SDGs AICHI EXPO 2024 とは？

「SDGs AICHI EXPO 2024」は、各主体、各世代間の持つ多様な強みを結集し、それぞれがつながり、取組を共創することによってサステナブルな未来を目指していくことを主目的としています。

企業、大学／学校、NPO、自治体といった各出展者がより交流しやすい場づくりと、県内の様々な連携事例を共有できる仕組みを取り入れることで、異なる主体同士の連携がより生まれやすいイベントとします。

SDGs達成に向けた取組が後半戦を迎える中、これまでの取組をさらに進化させるために、新しいパートナーと出会い、連携事例を学ぶことができるイベントを目指して開催されています。

主催する実行委員会の構成員は以下の通りです。

SDGs AICHI EXPO 実行委員会

愛知県

一般社団法人中部SDGs推進センター

環境パートナーシップ・CLUB

公益社団法人日本青年会議所東海地区愛知ブロック協議会

愛知学長懇話会SDGs企画委員会

特定非営利活動法人愛知環境カウンセラー協会

中部ESD拠点協議会

国際連合地域開発センター

独立行政法人国際協力機構中部センター

環境省中部地方環境事務所

株式会社新東通信



ESDとは？

■ 持続可能な開発のための教育（ESD）とは？

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。（出典：文部科学省）

■ SDGs と ESD の関係は？

ESDは、SDGsのゴール4番「教育」のターゲット4.7に、その重要性和達成目標が書き込まれています。しかし、SDGsの達成には、人材育成・教育・学びが不可欠であり、ゴール4番のみならず、すべてのゴールの達成にとって重要な役割を果たします。SDGsの達成の鍵であるESDの推進のために、ユネスコは、SDGs達成に向けたESD推進の国際的なプログラムである、「ESD for 2030」を2020年に開始し、2030年までに世界中でその取組が進められています。



国連「ESDの10年」とは？

国連「持続可能な開発のための教育（ESD）」の10年（2005－2014年）
（United Nations Decade of Education for Sustainable Development）

国連は、10年間をかけて集中的に課題解決をめざす「国連の10年」の枠組みを使って、2005年から2014年までを「国連ESDの10年」と定めて、国連機関横断型の国際的な推進活動を展開してきました。「ESDの10年」を提案したのは、日本政府（小泉純一郎首相：当時）でした。

- 2002年 ヨハネスブルクサミット：日本政府がESDの推進を提案
- 2002年 国連決議（第57回総会）：「ESDの10年」（2005～2014年）の実施決定
- 2005年 「ESDの10年」開始：国際実施計画をユネスコにて策定（全体目標：持続可能な開発の原則、価値観、実践を、教育と学習のあらゆる側面に組み込む）
- 2009年 ESD世界会議（ボン）：ボン宣言の採択
- 2014年 「ESDに関するユネスコ世界会議（ESDユネスコ世界会議）」開催（愛知県名古屋市／岡山市）

- ※以下、「ESDの10年」終了後の主なユネスコの動向
- 2015年 ESDの「グローバル・アクション・プログラム（GAP）」（2015－2019年）開始
- 2020年 「ESD for 2030」（2020－2030年）開始



2002年 ヨハネスブルクサミットの小泉首相（当時）

出典：外務省ウェブサイト
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyowssd/koizumi_speech.html

「ESDユネスコ世界会議」とは？

「ESD ユネスコ世界会議」は、「国連 ESD の 10 年」の最終年のとりまとめ会合として 2014 年に開催された国際会議です。「国連 ESD の 10 年」の提案国である日本で開催されることが決まり、全国 7 地域の自治体が誘致に手をあげました。その結果、本会合を愛知県名古屋市で、ステークホルダー会合を岡山市で開催することになりました。

ESD ユネスコ世界会議 (UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development) の概要

- 開催地：愛知県名古屋市（名古屋国際会議場）本会合
- 開催日：2014 年 11 月 10 日（月）～ 12 日（水）
- 正式参加者：150 か国・地域 1,000 名以上
- 閣僚級：76 名（大臣：52 名、その他：24 名）
- 内容：全体会合、ハイレベル・ラウンドテーブル、ワークショップ 34、サイドイベント 25、併催イベント 21 件



ESD ユネスコ会議では、「国連 ESD の 10 年」の活動成果のとりまとめが行われ、2015 年以降の ESD 推進のための「グローバル・アクション・プログラム」の開始が発表されました。また、成果文書として、ESD のさらなる強化と拡大のための行動を求める「あいち・なごや宣言」が採択されました。

ESD ユネスコ世界会議では、各国代表のみならず、ESD に関わる多様な主体が参加し、地球規模課題に地域で取り組む諸活動の紹介や、多彩な議論が展開されました。



ステークホルダー会合

- 開催地：岡山市
- 開催日：2014 年 11 月 4 日（火）～ 8 日（土）
- ステークホルダー会合参加者：約 1,800 名
- 内容：ユネスコスクール世界会議、グローバル RCE 会議、ユース・コンファレンス等



2014年11月10日から12日、愛知県名古屋市で開催されたESDに関するユネスコ世界会議の参加者である我々は、持続可能な開発に関する経済、社会、環境分野のバランスの取れた、統合されたアプローチにより、現代の世代が要求を満たしながらも、未来の世代が要求を満たすことができるように、この宣言を採択し、持続可能な開発のための教育(E SD)の更なる強化と拡大のための緊急の行動を求める。この宣言は、人々が持続可能な開発の真ただ中であることを認識するとともに、国連ESDの10年(2005年-2014年)の成果、つまりESDに関するユネスコ世界会議及び2014年11月4日から8日に岡山市で開催されたステークホルダーの主たる会合、すなわちユネスコスクール世界大会、ユネスコESDコース・コンファレンス、持続可能な開発のための教育に関する拠点(RCE)の会議、さらに地域の大規模会合を含むその他の関連イベントや協議プロセスの審議に基づく。我々はESDに関するユネスコ世界会議の開催国である日本政府に心から感謝する。

1. 国連ESDの10年(2005年-2014年)の多大なる功績、特に国内外のアジェンダにおけるESDの位置づけを高め、政策を進め、ESDの概念的理解を深め、幅広いステークホルダーによる実質的な多くの優れた取組を生み出したことを祝い、
2. 国連ESDの10年の実施に積極的に参加した多くの政府、国連機関、非政府組織、すべての種類の教育機関・教育組織、学校の教育者と学習者、地域と現場、コース、科学コミュニティ、学術界、その他のステークホルダー、また、10年間の主導機関としての役割を担ってきたユネスコに感謝の意を表し、
3. 2012年の国連持続可能な開発会議(リオ+20)の成果文書「我々が望む未来」に含まれるESDの更なる促進のための国際的なコミットメントを想起し、
4. 第37回ユネスコ総会において、国連ESDの10年のフォローアップとして、またポスト2015年アジェンダへの具体的な貢献として支持されたESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)が、教育、訓練、学習の全てのレベル及び分野においてESDの行動の導入、拡大を目指していることに留意し、
5. 気候変動(気候変動に関する国際連合枠組条約第6条及びドoha作業計画)、生物多様性(生物多様性に関する条約第13条とその作業計画及び関係する決定事項)、防災(兵庫行動枠組2005年-2015年)、持続可能な消費と生産(持続可能な消費と生産に関するプログラムの10年枠組の持続可能なライフスタイルと教育プログラム2012年-2021年)、児童の権利(児童の権利に関する条約第24条(2)、第28条、第29条)、その他の分野における政府間合意において認められているように、ESDを持続可能な開発の実施のための極めて重要な方法として再確認し、
6. グローバルEFAミーティング2014にて採択されたマスカットアグリーメントにおける目標及び持続可能な開発目標(SDGs)に関する国連総会のオープン・ワーキング・グループによって提案されたSDGsの目標の中にESDが含まれたことよって示されているように、包括的な質の高い教育と生涯学習に不可欠で、変化させる力を持つ要素として、また持続可能な開発を可能にするものとしてESDの国際的な認識の高まりを歓迎し、
7. 第195回ユネスコ執行委員会で承認されたユネスコ/日本ESD賞の創設を評価し、我々参加者は、
8. 批判的思考、システム思考、分析的問題解決、創造性、協働、不確実なことに直面した際の決断、また、国際的な課題がつながっていることの理解及びこの自覚から生じる責任のような、地球市民そして地域の文脈における現在及び未来の課題に取り組むために必要な知識、スキル、態度、能力、価値を発達させることで、学習者自身及び学習者が暮らす社会を変容させる力を与えるESDの可能性を重要視し、
9. ESDは、すべての国、特に小島嶼国や低所得国のような最も脆弱な国のためになる公平でより持続可能な経済、社会の実現を目的として、先進国と発展途上国の両方が貧困撲滅、不平等の縮小、環境保護、経済成長のための努力の強化に取り組む機会であり、責任であることを強調し、
10. ESDの実践は、持続可能な開発への文化の貢献、平和の尊重、非暴力、文化多様性、地域と伝統的な知識、先住民の英知と実践、さらに、人権、男女の平等、民主主義、社会正義のような普遍的原則の必要性と同様に地元、国内、地域、世界の文脈を十分に考慮するべきであることを重視し、
11. 関係する全てのステークホルダーが、GAPの開始に際してのコミットメントへの具体的な貢献を通じて表明したESDへの参加に感謝し、

12. ESDの五つの優先行動分野である政策支援、機関包括型アプローチ、教育者、ユース、地域コミュニティにおいて、フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな環境における、包括的な質の高い教育及び生涯学習をとおして、GAP開始のモメンタムの構築及び維持を約束し、

13. 政府、政府が加盟する機関・ネットワーク、市民社会団体・グループ、民間企業、メディア、学術研究コミュニティ、教育・研修機関及びセンターをはじめ、国連機関や二国間・多国間開発機関、その他の種類のすべてのレベルの政府間機関を含む、関係する全てのステークホルダーが、相乗的な方法で、a) 明確なゴールを設定し、b) 活動を開発、支援、実施し、c) 経験を共有するためのプラットフォーム（ICTを基礎とするプラットフォームを含む）を構築し、d) GAPの五つの優先行動分野におけるモニタリング及び評価の方法を強化するよう求め、

14. ユースをキーとなるステークホルダーとして巻き込み、尊重しながら持続可能な開発のための意志決定及び能力育成を強化するために、科学・政策・ESDの実践のインターフェイスにおいて、特に教育省やESDに関する全省庁、高等教育機関及び科学やその他の知識コミュニティなど、全ての関係するステークホルダーが部門や分野の境界を越えて共同的で可変的な知識の生産、普及、活用、イノベーションの促進に従事するよう促進し、

15. ユネスコ加盟国の政府に以下のような更なる取組を求める。

a) 教育の目的、教育を支える価値をレビューし、教育政策とカリキュラムがどの程度ESDのゴールを達成しているかを評価し、システム全体としての全体的アプローチ及びマルチステークホルダーの協力、教育セクター、民間企業、市民社会及び多様な持続可能な開発分野に従事する人々のパートナーシップに特別な注意を払いながら、教育、訓練、及び持続可能な開発政策へのESDの統合を強化し、教員や他の教育者の教育、訓練、職能開発が十分にESDを取り入れることを確保し、

b) 特にGAPの五つの優先行動分野に沿った国内及びサブナショナルレベルのフォーマル及びノンフォーマルな教育・学習の両方に必要な機関の能力を構築するなど、政策を行動に移すために実質的な資源を配分、結集し、

c) 第一にESDを教育の目標として残し、分野横断的なテーマとしてSDGsに取り入れることを保証し、第二にESDに関するユネスコ世界会議（2014年）の成果を2015年5月19日から22日に韓国・仁川で開催される世界教育フォーラム2015において考慮されるよう保証することでポスト2015年アジェンダ及びそのフォローアッププロセスにESDを反映、強化させる。

16. ユネスコ事務局長に以下のことを求める。

a) GAPの実施のためのユネスコのロードマップの枠組みの範囲で、政府、他の国連機関、開発パートナー、民間企業、市民社会と協力し、ESDのグローバルリーダーシップを提供し、政策の共同作用を支援し、ESDに関するコミュニケーションを円滑化し、

b) パートナーシップを活用し、ユネスコクラブ及びユネスコクラブ協会と同様、ユネスコスクール、ユネスコチェア、ユネスコが支援するセンター、生物圏保存地域及び世界遺産の国際ネットワークなどのネットワークを動員し、

c) ESDの資金を含む適切な方策を保証する重要性を支援する。



あいち・なごや宣言の採択



- ユネスコ「ESD for 2030」(2020-2030年)
- 国連大学「ESD 地域拠点 (RCE)」



- 日本政府の「第2期 ESD 国内実施計画」
- ユネスコスクール (ACCU)



- ESD 活動支援センター
- 中部地方 ESD 活動支援センター



- 環境省中部地方事務所
- JICA 中部



- 愛知県教育委員会 ユネスコスクール支援会議
- かがやけ☆あいちサスティナ研究所



- なごや環境大学
- 中部 ESD 拠点



- 中部サステナ政策塾

発表者の資料は、右の QR コードの本フォーラム特設サイトでご覧いただけます。
<https://chubu-esd.sakura.ne.jp/chubu/custom2.html>



主催 中部ESD拠点協議会

お問い合わせ
E-mail: esd@office.chubu.ac.jp
電話番号 : 0568-51-4485
住所 : 右記 (中部大学国際 ESD・SDGs センター内)

『ESD ユネスコ世界会議 +10 Years フォーラム』
主催 : 中部 ESD 拠点協議会
発行 : 中部大学 国際 ESD・SDGs センター
発行日 : 2024 年 10 月 12 日
〒 487-8501 愛知県春日井市松本町 1200
中部大学 リサーチセンター 3 階